

門 間 沼 遺 跡

調査の経過 門間沼遺跡は、葉栗郡木曽川町大字門間字沼に所在する。遺跡およびその周辺は、地籍図などによれば、区画整理前にはかつて所々に畑が点在しており、遺跡が木曽川によって形成された標高8～9mの微高地上に立地していることを示している。しかし現状は一帯が水田地帯となっているために、それを窺うことはできない。

ところで、門間沼遺跡を含めた周辺一帯では、以前から農作業のおりに遺物が出土していることから、地元住民には遺跡の存在が知られていた。昭和39年に始まった区画整理では、浅いところで50cm、深いところでは1m以上の深さまで土の掘り返しや移動が行われ多くの遺物が出土した。これを契機に木曽川町教育委員会に門間遺跡調査委員会が設けられ、昭和44年から昭和46年にかけて調査が行われた。その結果、3ヶ所の調査地点で古墳時代の遺物が出土し、ほかに弥生時代や中世の遺物も出土した。このことから「門間遺跡」が古墳時代を中心とする大規模な遺跡であることが判明した。また、大きな河原石が出土していることや、一帯に「塚」のつく地名が多いことから、付近にはかつて古墳群が存在していた可能性が高いと考えられている。実際、門間遺跡の東方には浅井両古墳群が、南西には今伊勢古墳群が存在し、第3の古墳群の存在が期待された。

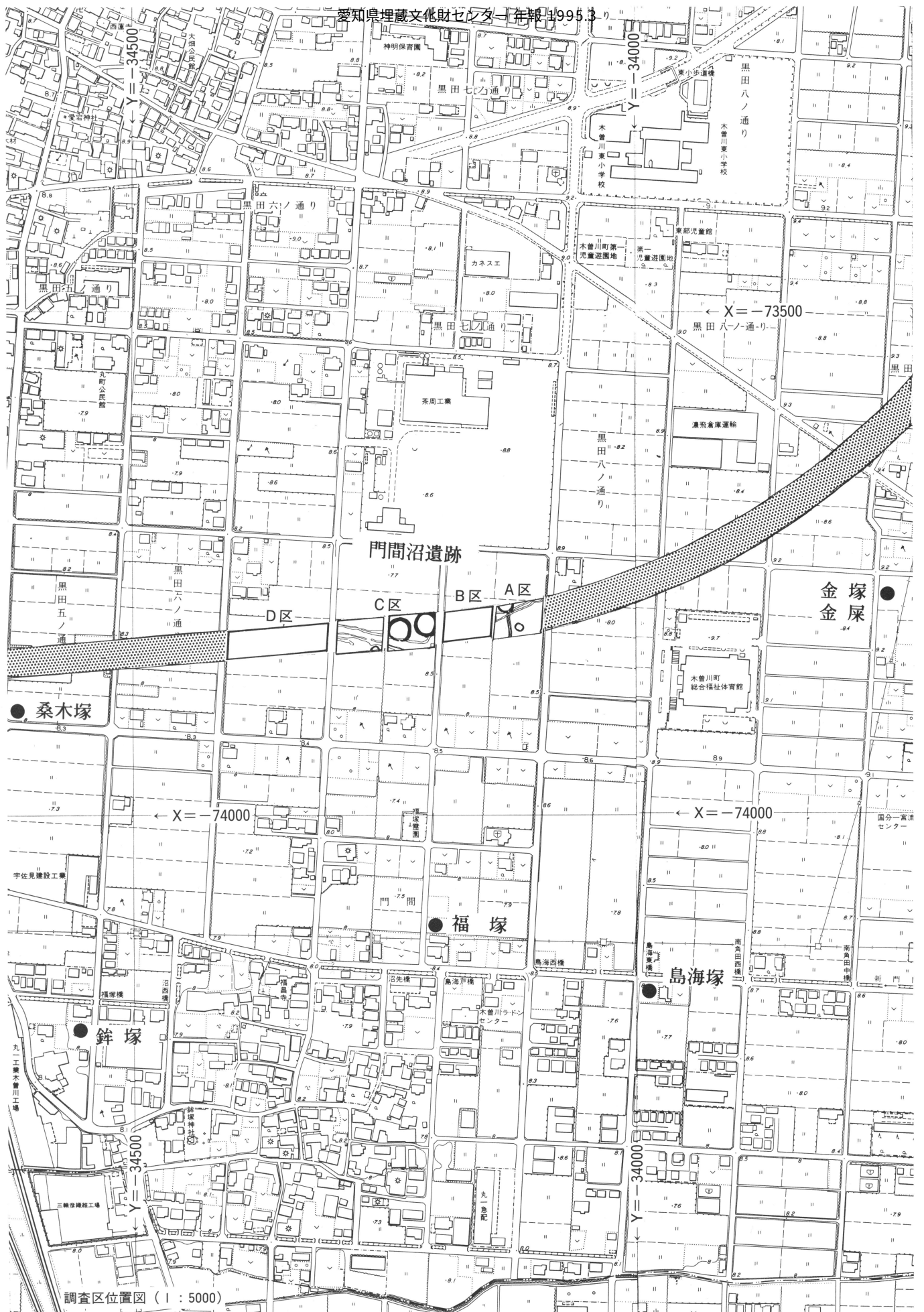
調査の概要 今回の発掘調査は、東海北陸自動車道の建設に先立つもので、日本道路公団・愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、本年4月より当センターが調査を実施した。道路予定地は門間遺跡の北西部を通っているが、遺跡の範囲が広大であることから、付近の小字名をとって「門間沼遺跡」と表記している。

本年度の調査予定面積は10000㎡で、これを東のA区から西のD区まで4つの調査区に区分して調査を進めた。調査区は以前は水田であり、まず耕作土を重機で除去し、その後にベルトコンベアーを設置して発掘作業員を投入し人力による掘削を進めた。また、地下水の湧出に対処するためにウェルポイントを設置して地下水の強制排水も行った。

発掘調査の結果、次のことが明らかになった。

門間沼遺跡は、大きく弥生時代中期初頭、古墳時代、古代末から中世の3時期に区分され、そのうち古墳時代に属す遺構・遺物の密度がもっとも高いことから、やはり古墳時代を中心とした遺跡であることが確定した。ただ、旧表土である黒褐色シルトが検出されずその下の砂層がそのまま遺構検出面になっている部分があることから、遺跡の上部が区画整理によって削平されていることも発掘調査によって確かめられたのであり、本来存在した時期の遺構・遺物の全てが明らかになったわけではないことも、ここに付け加えておこう。

なお、以下では本年度上半期に調査したA・C区を中心に報告する。



A区の遺構・遺物 A区では、古墳時代前期の溝、6世紀中頃の円墳と同時期の掘立柱建物、中世の溝と土坑が検出された。

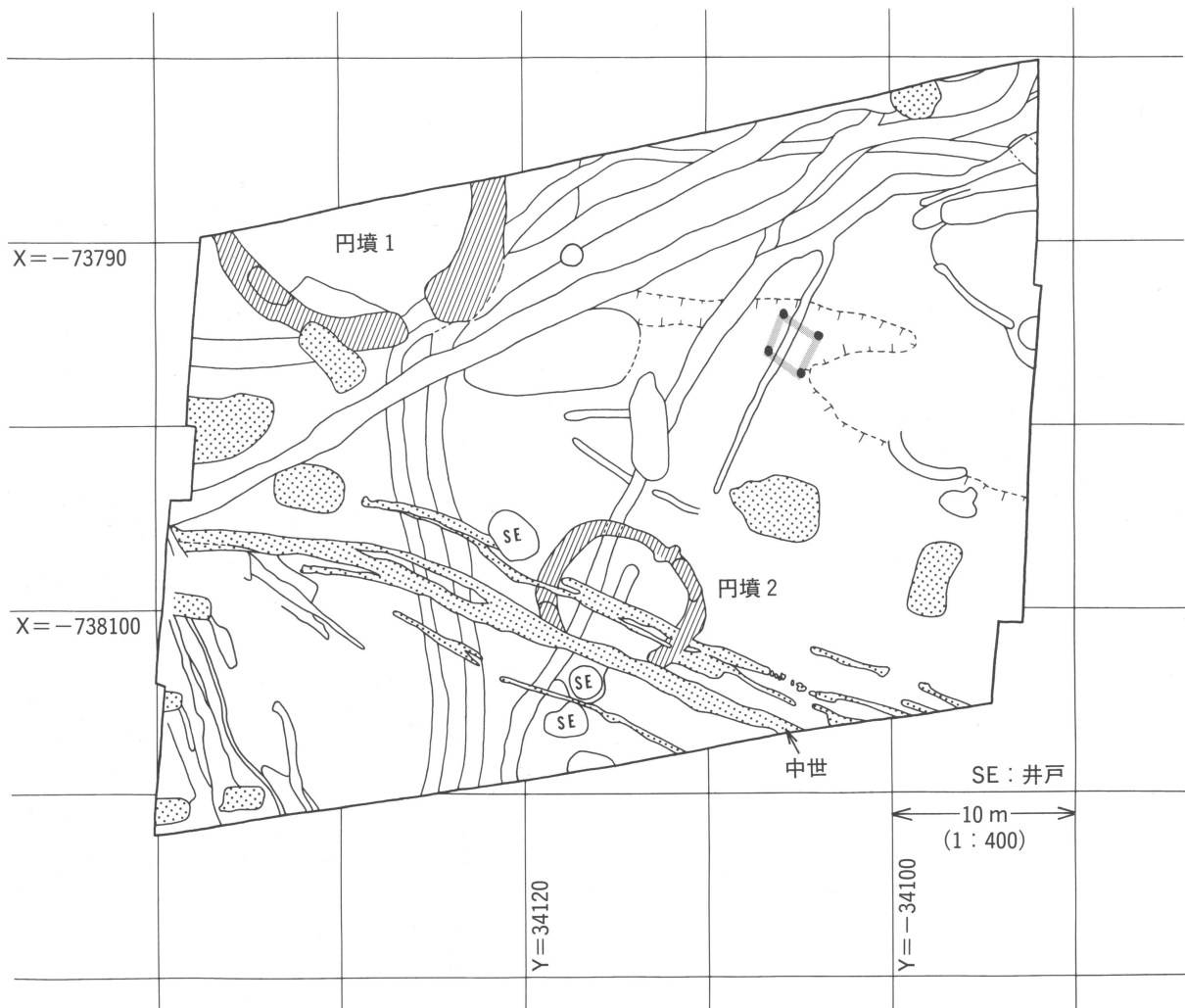
古墳時代前期の溝（下図白ヌキ表示）は、埋土にほとんど遺物を含まず時期の認定に困難を伴ったが、円墳1の周溝に切られていることからそれ以前であること、また最低3回の重複が認められ、さらにそれぞれ改修されていることから、意外に時期幅があると予想された。注目されるのは、溝が平行して掘削されていることで、溝に挟まれた帯状の部分が「道」であった可能性を強く示している。

円墳1は直径約14mで、周溝が南で切れ、この付近から須恵器（甕2・壺1）、土師器（高杯2）が出土した。円墳2は直径約7mで、プランは不整円形であり、方形プランがくずれたものかもしれない。遺物は出土していない。

掘立柱建物は、円墳1・2と三角形をつくる位置にある。柱間は1間で、北東柱穴から丸底甕が出土した。

中世は、自然埋没の大形土坑（内部から円礫が出土した：集石土坑を含む）3基の他に、斑状の埋土が充填された規格的な方形土坑が検出されている。

他には石鏃が数点出土している。



C区の遺構・遺物 C区では本年度の4調査区のなかで古墳時代前半期の遺構・遺物が最も密に検出された。

また、下層に弥生時代中期初頭の包含層が部分的に遺存していることも明らかになった。

弥生時代中期初頭に属す遺構は土坑が2基のみである。しかし、土器はそれ以外からも出土しており、しかも年代がほぼ中期初頭に限定されていることから、古墳時代の遺構・包含層から多数出土した各種石器類（伐採斧・加工斧・スクレーパー・粗製剥片石器（光沢のあるものと無いものがある）・石鏃・タタキ石・凹石など）もこの時期のものであることがほぼ確定できる。一時期の石器組成を知ることができる良好な資料である。

古墳時代前半期の遺構には、中央の幅約10mの溝状凹地の方向に沿って東西に走りC区東部で北に折れる溝1と、南北微高地を中心に展開する竪穴建物・掘立柱建物・井戸・溝2・3・4・5、平行する小溝群などがある。

このうち溝4は、断面が箱形を呈し、底面には浅いピット状の窪みが規則的に並んでおり、古墳時代の方形居館論議で取りざたされている区画施設（塀の基礎構造）に類似している。時期は古墳時代前半期初頭に属す。そして同時期の井戸や平行小溝群、大形土坑群などが北微高地縁辺において、溝1と溝4に挟まれた区域にそれぞれまとまりをもって展開するという空間配置が認められる。それ以外にも地割り線のような小溝が南北微高地で検出されている。

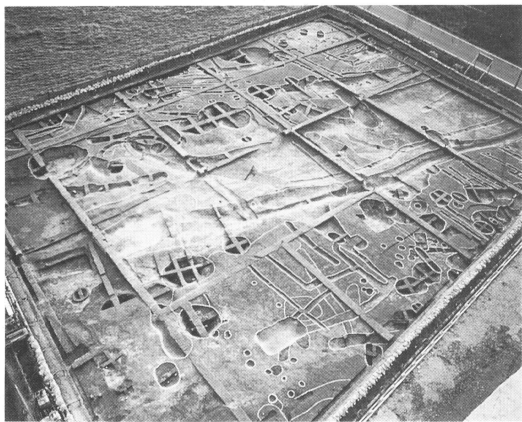
南微高地では、土坑の掘削・埋め戻しが連続的に行われた土坑列が検出された。土坑の配置は最終的に南東に陸橋部をもつ方形周溝墓状のプランを呈している。土坑が連続的に掘削されていることは、一定の境界認識が前提されていたことを窺わしめているが、さらにこの土坑列と溝状凹地の間に溝3が掘削されており、これも境界、つまり宅地区画を表示していると考えられる。そして土坑列の切れ目に近接して井戸が2基検出されている。

古墳時代前半期後半の遺構では、C区東部で検出された竪穴建物が注目される。竪穴建物はほぼ正方形で、少なくとも3棟存在する。この付近には柱穴も多数集中しており、掘立柱建物あるいは柵列等の存在も考えられる。この時期には建物群の範囲が拡大した模様である。溝1の埋没はこの時期に進行し、上層に土器なども投棄されている。

古墳時代後半期の遺構は、C区西部で集落関係の遺構群が、東部で円墳の周溝など墓域関係の遺構群が展開している。

北微高地では梁間1間の掘立柱建物が1棟検出され、抜き跡が良好に遺存していた西柱穴跡からは宇田型甕・

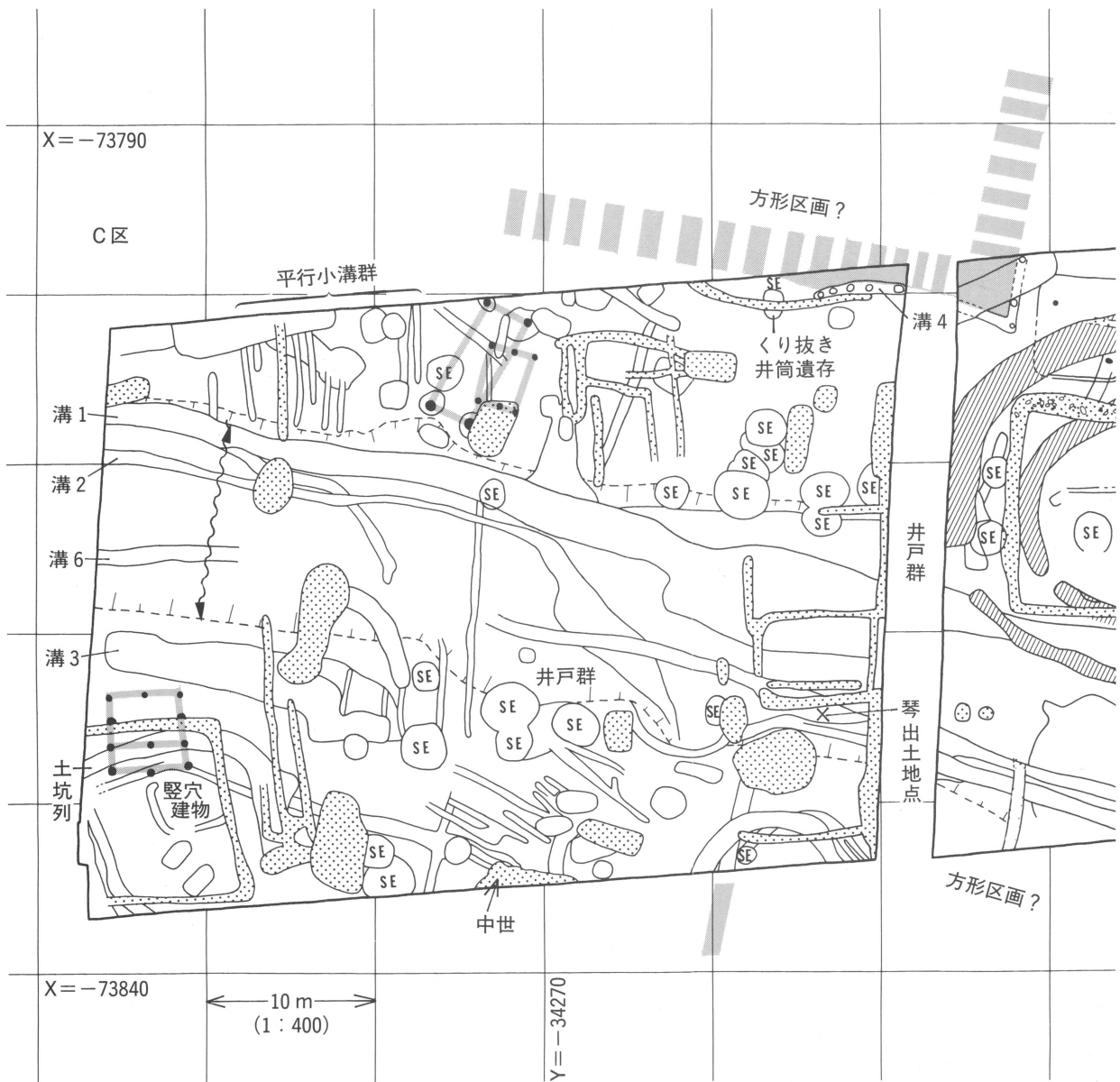


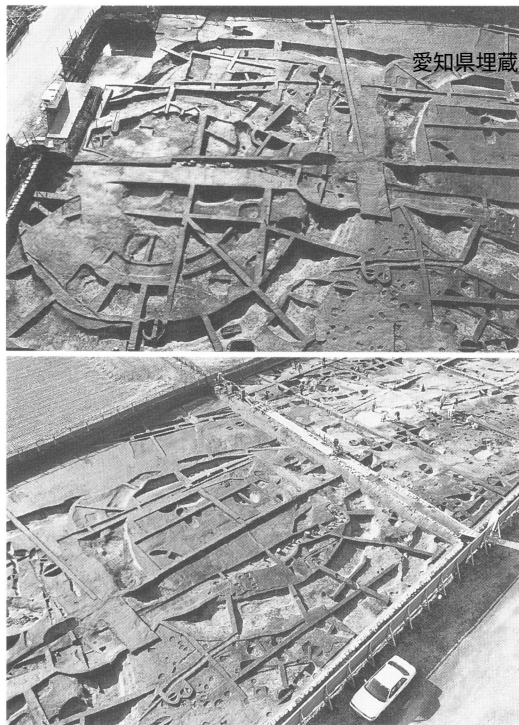


C区西半部



C区中央部井戸群

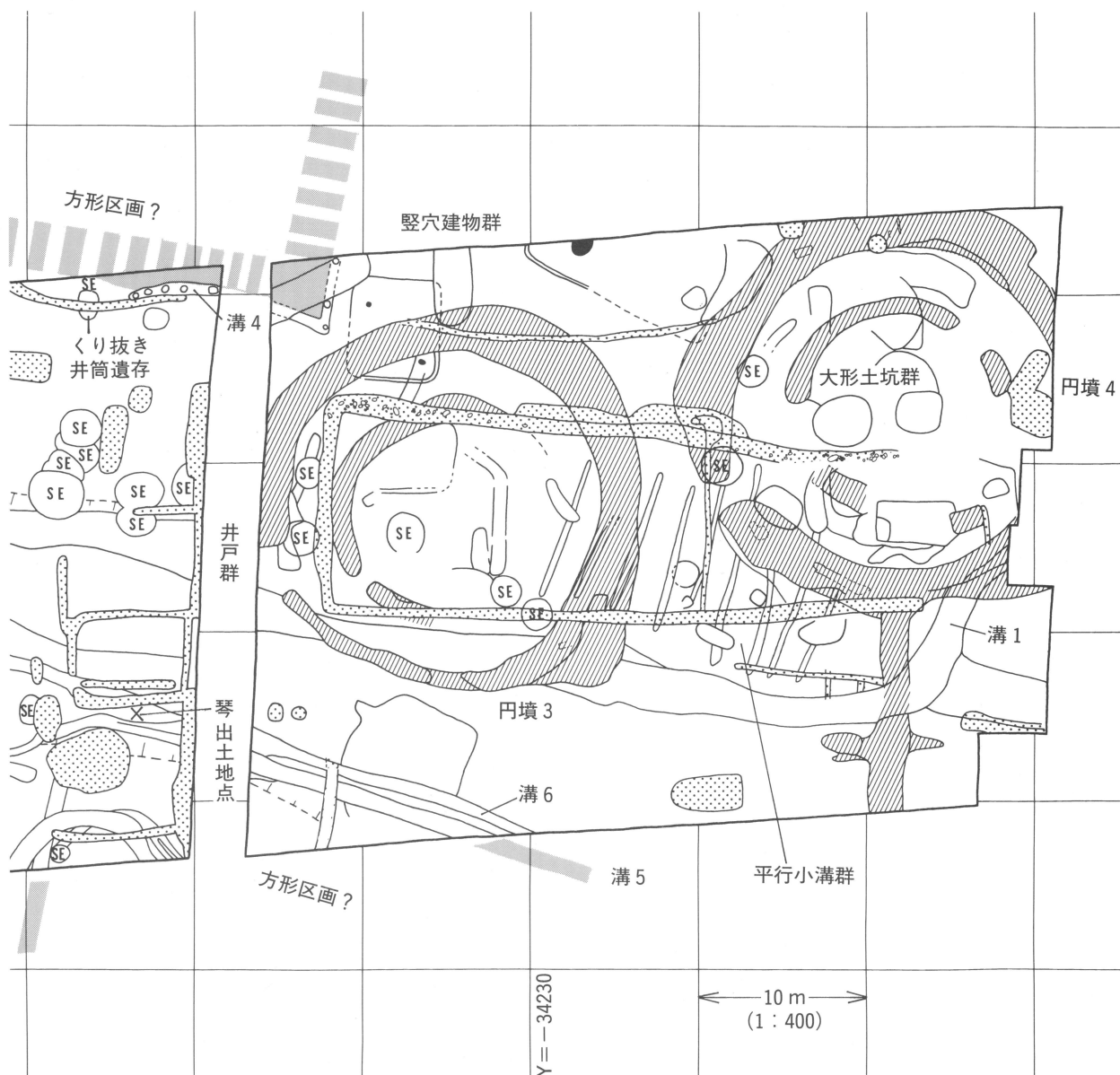




上：円墳 4 下：円墳 3



C 区全景





円墳3周溝加工面

須恵器甕片が出土した。また土坑状になった東柱穴では、下部から須恵器杯身が出土した。北微高地では他に井戸が2基検出されている。南微高地でもほぼ同時期の井戸が検出されている。なお溝6からは板作りの琴が1点出土している。

C区東半部では円墳の周溝が2基検出され、円墳3は5世紀末、円墳4は6世紀前半と推定される。どちらも直径は約18mほどで、西南西で周溝が切れて陸橋部をつくっている。また両者ともに周溝の内側に、連続はしないが直径約10mの同心円状に掘削された不規則な溝または土坑が存在している。これも外側の周溝と同様の

位置に陸橋部が設けられている。調査状況では、陸橋部側の溝が明瞭で、そこから離れるにしたがい浅く不規則になっている。この同心円の2条の溝に時期差があるのかどうかであるが、内側の溝が人為的に埋め立てられた状況は認められなかった。ただ、遺物のほとんどは外側の溝から出土しており、拡張と考えるよりは、主丘裾に巡らされた溝と考えるのが妥当であろうか。

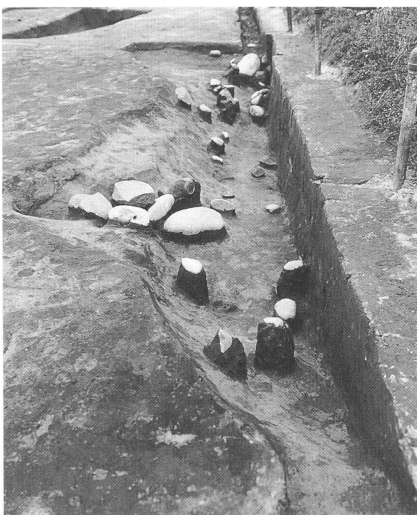
周溝からは各種須恵器が出土しているが、とくに円墳4からはフォーク状を呈する一本四又鋤の他に板材や柱材様のものがいくつか出土し、板材については溝内埋葬に関係するものがありそうである。この点に関して、円墳4北部の周溝内部から長方形土坑が複数検出された。板材を伴うものもあり、溝内埋葬が存在した可能性がある。

ところで、A区も含めてこれら円墳周溝の底面が加工面と調整面に分かれていることが確認された。加工面は、周溝掘削面であり、写真に見るように凹凸が著しい。調整面は掘削土を全て排出しないで底面を均した結果形成された面であり、見た目には斑状を呈している。凹凸のある加工面をさらに削り込んで均すことなく、残った土を均して仕上げている。

中世の遺構には、C区東半部で検出された長方形プランの区画溝の他にいくつかの溝や

土坑がある。長方形区画溝内部からは円礫が出土し、とくに円墳4に重複する部分では大きな円礫が出土したが、これらが円墳4の内部主体と関係があるのかどうか明確ではない。この長方形の溝で囲まれた部分には南北方向に直交する小溝があり、またC区中央部や西部でも方形に巡る溝がいくつか検出されている。礫の投棄された自然埋没の大形土坑も含めてこれらは畠に関係するのであろうか。そして、斑状埋土を有する規格的な方形土坑群はこれら溝の一部を切っており、中世後半には墓域への移行があったようである。

(石黒立人・栗林典昭・秋田幸純)



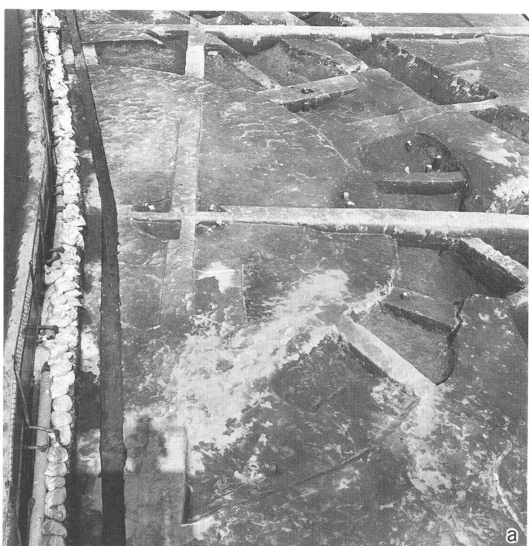
C区：大型土坑と集石



A区全景



A区とB・C区遠景



b

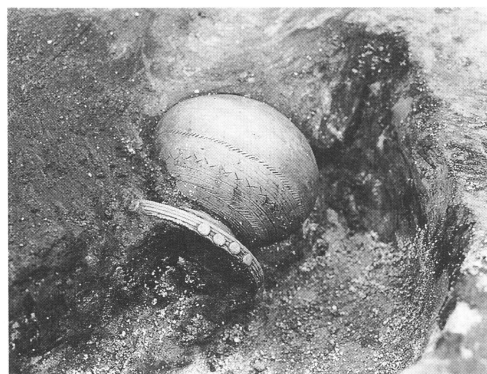
- a 円墳 | 遺物出土状態
- b 円墳 | 陸橋部付近の遺物
- c 円墳 | 礎出土状態



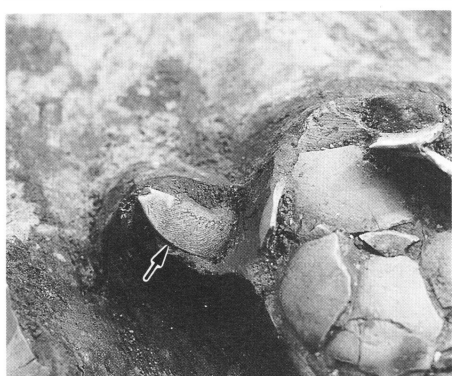
A区：大型土坑と集石



井戸上層の遺物出土状態

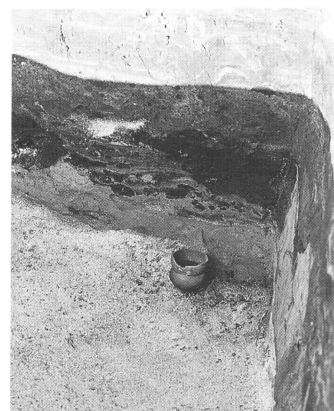
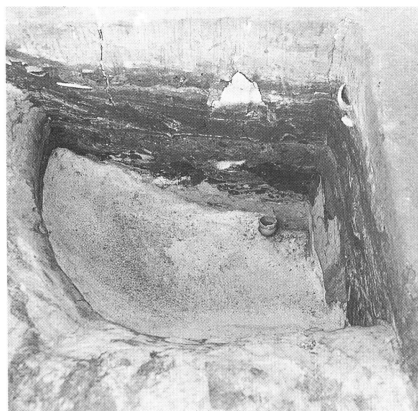


パレス壺



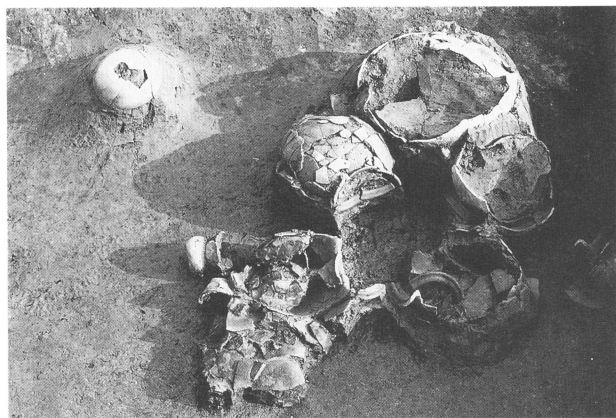
縄紋が施された壺片

溝3 遺物出土状態

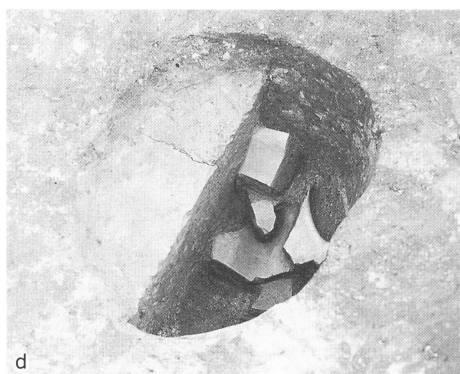
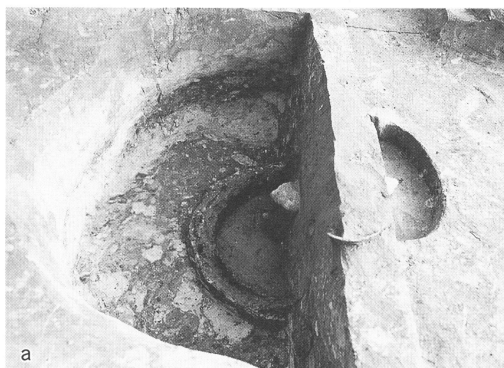
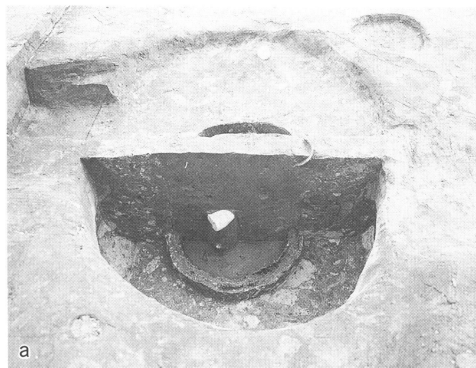


井戸の断面と小形鉢出土状態

C区



溝1上層の遺物出土状態



- a くりぬきの井筒をもつ井戸
- b 大形土抗下部出土の鉄柄
- c 柱穴内遺物出土状態
- d 柱穴内遺物出土状態
- e 円墳4 遺物出土状態
- f 円墳3 遺物出土状態
- g 溝6 琴出土状態と琴細部

